

学生によるオンラインおよび対面授業の選択と学習活動

寺尾 敦（青山学院大学）

キーワード：オンライン授業，対面授業，成績

問題と目的

新型コロナウイルスの感染症対策として、2020 年度より、ほとんどの大学オンライン授業が実施された。オンライン授業に関する質問紙調査はかなり多く行われた一方で、学生の実際の行動を把握した研究は見当たらない。対面とオンラインを実際を選択できるのであれば、学生はどちらを選択するだろうか？ この選択と、学習活動あるいは学習パフォーマンスとの間に、何らかの関係は存在するだろうか？ 本研究はこうした疑問に解答を与えることを目的とする。

方 法

調査対象者

青山学院大学社会情報学部での 1 年生必修科目「人間科学概論」は 6 名の教員によるオムニバス形式で実施されている。2021 年度および 2022 年度の履修者に対して、筆者が担当する 1 回の授業を、対面あるいはオンライン（リアルタイム）のいずれかで受講するよう指示した。2021 年度の出席者は 201 名、2022 年度の出席者は 205 名であった。

結果と考察

受講方法の選択

2021 年度の出席者 210 名のうち、受講方法の選択は、対面が 35 名 (17%)、オンラインが 175 名であった。2022 年度の出席者 205 名では、対面が 83 名 (40%)、オンラインが 122 名であった。2021 年度と 2022 年度で授業の時間割配置は同一であったが、2022 年度には対面の受講者が増加した ($\chi^2(1) = 27.769, p < .001, V = .264$)。

講義前クイズへの回答

講義前に回答することが求められたクイズへの回答の有無を Table 1 に示す。「未登録」はクイズが用意された学外の LMS への登録を行っておらず、したがってクイズへの回答も行っていない。2021 年度は、対面受講者の 86% が回答していたのに対して、オンライン受講者は 73% であった。独立性の検定の結果は有意ではないが、対面受講者に比べてオンライン受講者での未回答者が多かった。2022 年度は、対面受講者の 88% が回答していたのに対して、オンライン受講者は 71% であった。独立性の検定の結果は有意であり ($\chi^2(1) = 5.904, p = .015, V = .182$)、対面受講者に比べてオンライン受講者での未回答者が多かった。

Table 1

講義前クイズへの回答者数				
受講 方法	クイズへの回答			合計
	未登録	なし	あり	
2021 年度				
対面	4	1	30	35
	(11%)	(3%)	(86%)	(100%)
オンライン	25	22	128	175
	(14%)	(13%)	(73%)	(100%)
2022 年度				
対面	6	5	72	83
	(7%)	(6%)	(88%)	(101%)
オンライン	25	10	87	122
	(20%)	(8%)	(71%)	(99%)

授業後の課題の成績

受講方法によって、授業後に提出する課題の成績（100 点満点）に違いがあるかを検討した。2021 年度は、対面受講者の平均値は 62.9 ($SD = 22.3$)、オンライン受講者の平均値は 62.6 ($SD = 22.9$) で、違いは認められなかった。2022 年度は、対面受講者の平均値は 64.1 ($SD = 22.5$)、オンライン受講者の平均値は 55.7 ($SD = 27.5$) で、対面受講者の方が有意に高かった ($t(196.15) = 2.386, p = .018, g = .339, 95\%CI[1.45, 15.27]$)。

科目成績

この科目を担当する 6 名の教員がそれぞれつけた成績を総合した、最終的な科目成績（100 点満点）について、受講方法によって違いがあるかを検討した。2021 年度は、対面受講者の平均値は 79.4 ($SD = 6.6$)、オンライン受講者の平均値は 74.8 ($SD = 10.4$) で、対面受講者の方が有意に高かった ($t(72.621) = 3.342, p = .001, g = .619, 95\%CI[1.84, 7.30]$)。2022 年度は、対面受講者の平均値は 78.3 ($SD = 9.6$)、オンライン受講者の平均値は 73.7 ($SD = 14.1$) で、対面受講者の方が有意に高かった ($t(202.99) = 2.822, p = .005, g = .402, 95\%CI[1.41, 7.93]$)。

付 記

本研究は JSPS 科研費 20K03160 の助成を受けたものです。